

## 港区立御成門小学校 学校経営計画

港区立御成門小学校校長 和田 京子

東京都及び港区教育委員会の教育目標並びに、港区の目指す学校の姿に基づいて、御成門小学校の教育目標の達成を目指した学校経営を推進する。

今年度、本校は、開校して25年目を迎える。5つの学校が一つになってできた本校は、それぞれの大変長い歴史と伝統を受け継いで、「明るく素直な校風、気風」を継続している。25年目という節目の年に当たり、より一層子ども理解を深め、子どもたち一人一人が、毎日健康に安全に生活し、その子なりのよさや可能性を發揮して自分に自信をもつことができるように御成門小学校らしい質の高い特色ある教育活動を推進する。そして、子ども、保護者や地域の方、教職員の笑顔であふれる学校づくりに努めていく。

### 港区の目指すべき子どもの姿

夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造することも

#### 港区の学校経営の視点

- 子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校づくり
- 子どもたちが生き生きと学ぶことができる学校づくり
- 保護者や地域に信頼される学校づくり

### 本校の教育目標

○よく考え進んで学ぶ子      ○力を合わせやりとげる子      ○心も体もたくましい子

## I 学校の教育目標を達成するための基本方針

### 1. 生命及び人権尊重の精神と態度を育成する。

- ・教育活動全体を通して、生命及び人権尊重の精神と態度を育て、あらゆる偏見や差別をなくすとともに、豊かな人間性と生きる力の育成を図る。
- ・いじめの未然防止と早期発見・早期解決を図るために、学校いじめ対策委員会を設定し、日常的にいじめ根絶に取り組む。

### 2. 基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、一人一人の子どもに応じた、確かな学力を身に付けさせる。

- ・きめ細かな学習指導を実践し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決することなどを通して、思考力・判断力・表現力、その他の能力を育むとともに、子ども一人一人に応じた確かな学力を身に付けさせる。
- ・子ども一人一人の特性や環境・背景の理解を丁寧に行う。特別支援教育コーディネーターや教育相談担当、そして「ことばときこえの教室」の専門性を生かして、子ども理解を行い全体で共有する。

### 3. 意欲ややり遂げる力を育てる。

- ・子どもの実態に応じた多様な教育活動を通して、子ども一人一人に「わかった」「できた」体験を積ませることを通して意欲を育てるとともに、一つ一つの課題に丁寧に取り組み、最後までやり遂げる体験を日常的に積ませていく。

### 4. コミュニケーション能力の育成

- ・友達と協力して、課題に取り組んだり、相談したり話し合ったりしながら、問題を解決し

たりすることができるように、「あいさつ」「言葉遣い」、そして相手や場面に応じた言動がとれるようにする。

## 5. 健康で安全な生活と体力の向上を図る。

- 地震などの自然災害だけでなく、子どもにかかわる様々な事件・事故の未然防止を図るとともに、子どもが自分の安全に気を付けることができるように、計画的に安全教育を行う。
- 体育や食育、健康教育を通して、子どもに自分の健康や体力に関心をもたせ、日常生活の中で、子どもが進んで健康の保持増進と体力や運動能力の向上を図ることができるようにする。

## 6. 保護者・地域との交流をもとに、一体となって子どもを育てる。

- 授業や行事の公開、そして地域学習などを通して、保護者・地域に教育内容や子どもの実態を知っていただき、それらをもとに、学習や健康・安全、そして豊かな人間性などについて意見を交換し、連携して子どもを育てることができるようにする。
- いじめに代表される子どものコミュニケーションの問題、特により良い人間関係について、周りの大人が的確に子どもに対応することができるように、学校・家庭・地域が協力して児童にかかわっていくことができるようにする。
- 御成門中学校の生徒との交流を通して、お互いに刺激を受け合い、より良く生きていこうとする心情や態度を育てる。学習指導や生活指導等についての情報交換を行うとともに、地域の幼稚園・保育園とも連携し小学校・中学校へのスムーズな就学・進学ができるようにする。

## II 目指す学校の姿

「子ども一人一人を大切にし、笑顔のあふれる学校」

⇨ 自尊感情・自己肯定感を育む

### ○子どもが「分かった・できた」を実感し、喜々として学ぶ学校

子どもは、「分かる・できる」と楽しいから、またやってみたくなる。さらに、新たなことにも挑戦してみようと意欲をもつ。そこで、子ども一人一人の学習状況を把握し、それぞれに応じた指導・支援を工夫し、その子なりに「分かった・できた」を実感できる授業づくりに努める。

### ○子どもが安心して心を開き、よさや可能性を発揮できる学校

子どもがのびのびと自分らしくいられるのは、「安心」できる場である。子どもにとって、学校での「安心」の支えとなるものは、まずは「教師への安心感・信頼感」だと考える。教師は、子どもに寄り添い、行動の背景にある気持ちを理解するように努め、その子のよさを見取り、認め、心から褒め励ます。子どもが、教師への安心感を支えに、自分らしさを発揮し、健全に育つようにする。

### ○保護者の方が安心して、地域に愛される学校

保護者の方の「安心」とは、学校が子どもにとって安全の場であり、子どもが楽しく、生き生きと学び活動していることであると考え。まずは、安全な環境づくりに努め、事故を未然に防ぐ。さらに、保護者や地域の方には、積極的に日常の教育活動や子どもの様子を伝えるとともに、保護者や地域の方の声に耳を傾け、課題には迅速、誠実に対応し、連携して子どもを育てる。

### ○教職員が生きがいを感じる学校

子ども一人一人がよさを発揮し、生き生きと学び活動していることは、教職員にとっても喜びである。「子ども一人一人を大切にした教育活動の実践」を目指して、互いに磨き合い、高め合っていく。

### Ⅲ 中期経営計画

1. 一人一人の子どもが自己実現の喜びを味わい、確かな学力・豊かな人間性を身に付けることができるようにする。
  - 児童一人一人が「分かった」「できた」を日々の授業の中で実感し、学ぶ楽しさや喜びを味わい、確かな学力と豊かな人間性を育む。
  - 子ども一人一人がそれぞれ役割をもち、自分の役割を果たすことを通して、自己有用感をもつことができるようにする。
2. 児童が安全に、安心・安定して学べるようにする。
  - 地震などの自然災害だけでなく、子どもにかかわる様々な事件・事故の未然防止を図るとともに、子どもが自分の安全に気を付けることができるように、計画的に安全教育を行う。
  - 子ども一人一人が自分の学習状況に応じて学ぶことができるようにする。
  - 子どもの対人関係、コミュニケーション能力を育てる。
  - 教職員全員が日常的に子どもとかかわることを通して、子どもがだれにでも相談できるようにする。
3. 家庭・地域と連携して子どもを育てる。
  - 保護者や地域と一体となって子どもを育てる。
  - 教育活動の説明を丁寧に行い、保護者や地域と共通理解を図る。
  - 地域人材や地域素材を生かした学習や、身近な地域での体験を通して、地域を知り、地域とかかわり、地域から学ぶ。
4. 御成門中学校と連携し、小中一貫教育を推進する。
  - 子ども同士の交流を通して、お互いに刺激を受け合い、より良く生きていこうとする心情や態度を育てる。
  - 御成門中学校と学習指導や生活指導等についての情報交換を行うとともに、地域の幼稚園・保育園とも連携し小学校・中学校へのスムーズな就学・進学ができるようにする。
  - 各教科において小・中連携を図り、9年間を見通したカリキュラムを基に指導を行い、一貫教育を推進する。

### Ⅳ 今年度の取り組みと方策

1. 魅力のある教育活動 きめ細かな指導を進める。
  - (1) 授業のねらいを明確にし、一人一人の児童に基礎・基本を確実に身に付けさせる。また、「東京ベーシックドリル」を活用して、漢字や計算など学力の基礎を定着させる。
  - (2) 少人数学習指導やチームティーチングによる指導、習熟度別指導や課題別などの指導方法を取り入れ、子ども一人一人の学びの状況に応じたきめ細やかな指導を行う。
  - (3) 各教科・領域において、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、子ども主体の問題解決的な学習を進め、思考力、判断力、表現力を育む。
  - (4) 授業の中で、学び合いの場を確保し、各教科・領域において子ども相互のコミュニケーションを重視した学習活動を展開する。
  - (5) 言語活動を充実させ、思考力・表現力、そしてコミュニケーション能力を高める活動を日常化する。
    - ・ 授業の中で、学習したことをまとめたり、発表したりする機会を意図的に設定し、相手や場に応じた分かりやすい表現の指導や発表の仕方の指導を継続的に行う。
    - ・ 全校でスピーチ大会を実施する。
  - (6) 学校図書館の充実を図り、各教科の学習に読書活動を計画的に取り入れるとともに、読書、読み聞かせなど、RAS・保護者や地域協力者と連携して読書の習慣を身に付けさせる。

- (7) タブレット、デジタル黒板、デジタル教科書、ビデオコンテンツなど視聴覚機器・教材を効果的に活用した分かる授業を行う。
- (8) 社会科・理科・生活科見学や体験的な学習を取り入れた、地域や生活に関連させた学習活動を行う。
- (9) 地域人材や地域素材を生かした学習や、身近な地域での体験を通して、地域に学ぶ学習の機会を計画的に設定する。
- (10) 各教科・領域の中で、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- (11) 特別支援教育については、特別支援コーディネーターを中心に支援計画を作成し、全教員で指導の方針や具体的な手立てについて共通理解を図り、指導に当たる。
  - ・「はなみずきルーム」を活用して、巡回教員・専門員と連携・協力して子どもの課題に応じた指導・支援の充実を図る。
- (12) 体力や健康な生活習慣を形成するために、体育の授業を基本とした体力向上の取り組みや、食育を計画的に実施する。
  - ・朝運動、マラソン大会等の全校的な体育指導を実施する。
  - ・中休み、昼休みを20分は確保し、外遊びを励行させる。
- (13) 地震などの自然災害だけでなく、子どもにかかわる様々な事件・事故の未然防止を図るとともに、子どもが自分の安全に気を付けることができるように、計画的に安全教育を行う。
- (14) 情報化社会に、子どもが主体的に対応できるよう、コンピューターを活用した教育活動を計画的に行うとともに、インターネットの活用やメール等の伝達ツールの活用方法についても計画的・継続的に指導を重ね、情報リテラシーの基礎を身に付けさせる。
- (15) 近隣の幼稚園・保育園、小学校・中学校との連携を図る。
  - ・地域の学校として、近隣の教育機関と連携・交流を図り、子供相互のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、1年生のスムーズな学校適応・6年生のスムーズな中学校進学、及び自らの進路について具体的に考える機会を設定する。
  - ・御成門中学校と、学習指導・生活指導などについて交流し、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を見通した、一貫性のある指導を行う。

## 2. 心の教育の推進

- (1) 愛校心や地域を愛する心情を培う。
  - ・これまで学校が多くの人に支えられてきたことや、自分たちが生活する上で、保護者・地域の方々、そして学校の教職員や様々な人にお世話になっていることなどを日常的に理解し、愛校心や地域を愛する心情を養う。
- (2) いじめや仲間外れのない所属意識のもてる学級・学校づくり
  - ・ハイパーQUの活用やスクールカウンセラーによる面接を実施し、全教員で子どもの状況を受け止め、組織的に対応を図る。
  - ・年3回の「ふれあい月間」を活用し、いじめのない学校・学校づくりを目指して子ども一人一人に自分にできることを考えさせる。
  - ・学校いじめ対策委員会を定期的に行い、いじめ等の問題行動に対して未然防止に努める。
- (3) 人とかかわり温かな人間関係を築く。
  - ・道徳教育の充実を図り、社会に生きる力を育み道徳的な実践力を育てる。
  - ・言語環境を整え、正しい言葉使いや礼儀等の指導を教育活動全体の中で行う。
  - ・縦割り班活動など、異年齢の児童がかかわる活動を計画的に行い、思いやり・やさしさなどを日常的に実践・体験させる。
  - ・幼稚園・保育園、青ヶ島小学校、利島小学校、御成門中学校との交流を通して、お互いを認め合ったり、尊重したりする活動を通して、温かな人間関係を体験させ、コミュニ

ケーション能力の基礎を培う。

(4) 規範意識の育成

- ・学校で学ぶ際に必要なルールや、集団生活に必要なマナーなどを、一人一人の子どもの生活実態に応じて身に付けさせるなど、教育活動全体の中で、規範意識を身に付けさせる。
- ・校外学習などを通して、安全な歩行や交通機関・公共施設の利用の仕方などを、実践を通して学ばせる。

(5) 家庭や地域との連携を基に心の教育の充実を図る。

- ・学校で進める道徳教育など、心の教育にかかわる課題を共有し、共に実践する。
- ・みなと平和祭りへの参加や地域清掃等により奉仕の心を培う。

(6) 対人関係にかかわる基礎力を育てる。

- ・人間関係をつくる表現力や対応力を培うとともに、認め合い、思いやる雰囲気醸成を図る。そのために、言葉遣いや話し方・聞き方などを含めた言語活動の充実を図る。
- ・教育活動全体を通して、教員が児童一人一人の状況に応じたコミュニケーションの取り方を具体的な場面を通して指導する。

(7) 教育相談の充実

- ・きめ細やかに健康観察を行い、子どもに関する情報交換を密にする。
- ・スクールカウンセラーと連携・協力して、子どもに寄り添い、一人一人の思いを受け止めて指導する。

### 3. 国際社会に対応する教育の推進

(1) 日本の文化・伝統を学ぶ

- ・7月に俳句大会を開催する。
- ・各教科、総合的な学習の時間などで、地域や日本の文化・伝統を学ぶとともに、地域にある歴史的文化遺産などを活用して体験的に学ぶ。

(2) 国際理解教育の充実

- ・赤十字の活動、ASEAN協会など外国の方々との交流を図るなど、具体的な活動を通して、世界中が助け合っていることや他国の文化などに触れ、国際理解の素地を培う。

(3) 国際科の充実

- ・御成門中学校と連携し、小・中の9年間を見通したカリキュラム作りを進める。
- ・NTとの連携により国際科の指導の工夫や改善に取り組み、学年や個に応じた英語を使っているコミュニケーション能力を育てる。

### 4. 開かれた学校

(1) 保護者・地域との積極的なかわり

- ・学校だより、ホームページ、学年だよりにより教育活動を紹介する。ホームページは週に1回は更新する。
- ・授業を中心とした教育活動を広く公開する。保護者等の参加をいただく行事として、運動会、学習発表会、学校公開、保護者会、セーフティ教室、道徳授業地区公開講座等を予定している。積極的な参加を呼びかける。

(2) 保護者や学校評議員による学校評価を教育活動に反映させる。

- ・7月と12月に学校関係者評価を実施する。結果を公表し、課題や要望に対して、迅速に学校の方針や改善の方策を示す。
- ・学校評議員会を年3回開催する。評議員には、授業参観をしていただき、教員の授業に関しての評価をいただく。

## 5. 組織対応と教職員の能力・資質の向上

### (1) 組織対応の徹底

- それぞれの職種や職層の役割を自覚し、経営方針の実現に向けて努める。
- 事案決定手続きを適正に実施する。
- 「報告、連絡、相談」を密に行う。
- 全教職員で御成門の子どもを育てる。

### (2) 教職員の研究・研修の充実

- 年間計画に基づいて校内研究の充実を図り、全教員が子ども主体の問題解決的な学習を進められるようにする。
- 日常的な OJT を推進し、年 1 回以上教員相互で授業観察を行い、授業改善に取り組む。
- 研究会や研修会に積極的に参加したり、教育専門書読んだりして学んだことを教員相互で伝え合い、互いに指導力の向上を目指す。
- 学年部、各分掌を中心とした日常的な OJT により、若手教員を育成する。

### (3) 教職員のさわやかな接遇

- 保護者や地域の方に対して、明るくさわやかな挨拶や丁寧で思いやりのある対応を常に心がけ、徹底する。
- 常に、服装や身だしなみ、言動に気を配る。

### (4) 教育公務員としての自覚

- 服務事故を未然に防止するために毎月研修を実施し、教育公務員としての自覚を促し、服務事故〇を継続する。